

厚生労働行政推進調査事業費補助金
障害者政策総合研究事業（身体・知的等障害分野）

総括研究報告書

研究課題名：医療的管理下における介護及び日常的な世話が必要な行動障害を有する者の
実態に関する研究（課題番号：H27-身体・知的-指定-001）

研究代表者：市川 宏伸（日本発達障害ネットワーク）

研究分担者：

内山 登紀夫（大正大学社会心理学部教授）

井上 雅彦（鳥取大学医学系研究科教授）

志賀 利一（国立重度知的障害者総合施設のぞみの園・事業企画局研究部長）

高橋 和俊（社会福祉法人侑愛会・おしま地域療育センター・所長）

田中 恭子（熊本大学医学部・児童精神医学特任助教）

堀江 まゆみ（白梅学園大学こども学部教授）

會田 千恵（国立病院機構 肥前精神医療センター）

小倉 加恵子（森之宮病院神経リハビリテーション研究部研究員）

研究要旨：知的・発達障害福祉支援施設の現場では、強度の行動障害を持つ利用者への対応と利用者の高齢化の二つが大きな課題になっており、福祉と医療との連携が重要な意味を持つことと考えられる。27度の予備調査では、福祉スタッフと医療スタッフの連携がうまく行っている例は少なく、利用者にとっては望ましい状況ではなかった。28年度は福祉と医療の連携を密にするための具体的手がかりを得ることを目的とし、更なる調査研究を行い、最終年度の提言に備えることとした。

A．研究目的

ノーマリゼーションという言葉が使われてから久しいが、知的障害・障害児における医療は量的にも質的にも十分とは言えない。このことは障害児者が自ら不調を訴えにくいこととだけでなく、福祉関係者の医療への知識の乏しさ、医療関係者の不勉強による対応の難しさなどが関連している

ように思われる。このような状況下において、どのような点から改善に取り組んでいけばよいか考える手がかりとして研究を行った。

B．研究方法

3つの視点から現状調査と今後の方向性の調査を行った。福祉施設における、福

社スタッフと医療スタッフの連携の現状を調査し、課題と対応について調査研究した。今年度は手をつなぐ育成会の協力を得て、福祉に従事する看護職、医師の現状認識を調べた。また渡島コロニーにおける、医療的ケアに対する職員の意識、薬物治療の現状も調べられた。日本児童青年精神医学会と日本小児神経学会加盟医師の福祉医療への意識調査を行った。強度行動障害児者を中心に、国立病院機構肥前医療センター、日本精神病院協会の協力を得て、福祉現場への医療的取り組みの現状、今後の方向性について意見を聞いた。望みの園からは、精神科病院から地域への移行の試み、発達障害児への医療受診の円滑化の取り組みが報告された。福祉施設利用者などを対象に、健康度調査の現状を調査し、その課題と解決策を研究した。都市規模の違いを考慮した健康診断、数少ない“知的・発達障害者ドッグ”を行っている杉並区の現状と課題、これから行おうとしている大牟田市の取り組みを検討した。

C．研究結果

については、昨年度の東京都社会福祉協議会の報告と同様に、医療と福祉の前提の違いに基づく連携の難しさ、医療職養成課程における福祉知識の欠如などが明らかになった。知的障害施設における各職種の感ずる医療ケアの難しさ、向精神薬多剤投与の実際が示された。については、児童青年精神科、小児精神科における調査では、福祉と関わりを持たない医師も多く、持っていたとしても非常勤が圧倒的であった。関与している医師の中では、「福祉スタッフの医療に関する知識の不足」、「施設設備の

不十分」、「可能な医療行為の範囲の不明確さ」、「診療時間の確保の困難」などが指摘されていた。強度行動障害者への入院医療については、国立病院機構病院での短期入院の試み、精神科病院協会加盟病院における対応、地域以降の試みが報告されたについては、知的・発達障害児者では医療的ニーズが極めて高い一方で、健康診断については地域におけるバラツキがあった。先進的に行われてきた杉並区での取り組みは、病院の献身的な協力の下で行われており、更なる拡大にはいくつかの課題があった。新たに開始を考慮している大牟田市でもいくつかの課題が存在していた。

D．考察

知的・発達障害の医療がそうでない者の医療に比べて、量・質ともに劣っていることが推測された。障害医療の改善には、利用者、家人、治療スタッフ各々の意識変化、経済的裏付け、治療水準の向上などが必要であることが再確認された。

E．結論

知的・発達障害があっても、健常者と同様の医療を受けられる環境が整えられる必要があると考えられ、現状の改善のためにこの研究結果が役立つことが期待される。今年度は実施できなかったが、海外の先進的取り組みも取り入れる必要が痛感された。

F．健康危険情報

特になし

G．研究発表

1. 論文発表

市川宏伸 発達障害の特徴と困難 4 - 12
法律のひろば 69 H . 2 8 . 4 (2016)

市川宏伸 子ども時代に診断された A S D
者の成人像 - 医師の立場から 367 373
58 H . 2 8 . 5 (2016)

市川宏伸 精神医学の立場からの意見書
賃金と社会保障 14 - 18 No .1665 H .
2 8 . 9 .(2016)

市川宏伸 発達障害児・者への支援におけ
る支援 公認心理師 38-39 臨床心理士
増刊号 H . 2 8 . 9 .(2016)

市川宏伸、平谷美智夫、安原昭博、辻井農
亜、大下隆司、小野浩昭、田鳥祥宏 小児
の自閉症障害に伴う易刺激性に対する
aripiprazole の安全性及び有効性：非盲検
長期継続投与試験の中間結果報告 精神神
経薬理 19 1481 1492 H .2 8 .1 0 .
(2016)
(東京) H . 2 8 . 1 0 .(2016)

市川宏伸 D S M -5 における A S D、A D
H D の概念 精神科 29 367-371
H . 2 8 . 1 1 .(2016)

2. 学会発表等

市川宏伸 強度行動障害と医療 平成 27
年度全国地域生活支援ネットワーク強度行
動障害医療研修(東京)2016.6.3.

市川宏伸 発達障害のある子ども - 気づき
とその対応 - 平成 28 年度 東京都精神
保健福祉研修(前期)(東京)2016 . 6.20 .

市川宏伸 発達障害 平成 28 年度法務省
矯正研修所中級管理科第 20 回研修(東京)
2016.6 . 24

市川宏伸 発達障害の特性理解 発達障害
支援スーパーバイザー養成研修(東京)
2016.7 . 29

市川宏伸 強度行動障害と医療 日本自閉
症スペクトラム学会 資格取得者研修(東
京)2016.8 . 29

市川宏伸 強度行動障害と医療 栃木県強
度行動障害支援者養成研修(宇都宮)2016.8 .
30

市川宏伸 自閉症の特性 東京都発達障害
者相談支援研修(東京)2016.10.22

市川宏伸 「医療」の立場からみた成人期
支援の課題と展望 - 発達障害者 支援法改
正に鑑みる成人期の課題と展望 - 発達障害
情報・支援センター医療・福祉従事者のため
の発達障害臨床セミナー(東京)2016 .11.6 .

市川宏伸 大人の発達障害について - 最近
の動きを含めて - 平成 28 年度内閣府障害
者週間連続セミナー(東京)2016.12 . 7

市川宏伸 成人の発達障害 茨城県精神科
病院協会公開講座(水戸)2016 . 12.18 .

市川宏伸 発達障害への理解と現状につい
て 埼玉県精神科医・小児科医を対象とし
た発達障害児・者研修(さいたま市)
2016.12.23.

市川宏伸 発達障害の診断と治療 - 二次的
障害も含めて - 平成 28 年度 (N P O)
和歌山県自閉症協会講演会 2017 . 1.15 .

市川宏伸 発達障害の理解と行政の役割
平成 28 年度多摩市職員研修 2017 . 2.2 .

市川宏伸 発達障害の理解と行政の役割
中災防事例から学ぶ職場のメンタルセミナ
ー(東京)2017 . 3.8 .

H . 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録

なし

3.その他

なし